

(8) 近畿



近畿地域では、景気は足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産は弱含んでおり、新型コロナウイルス感染症の影響もみられる。
- ・ 個人消費は足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱い動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(〃は上方に変更、〃は下方に変更)。

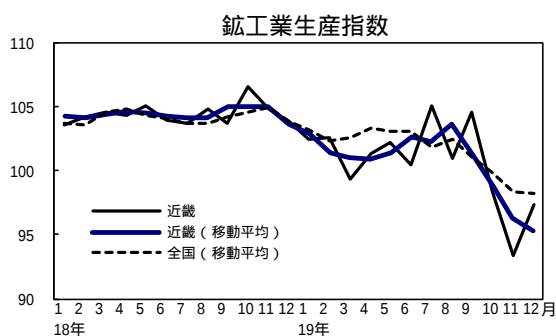
前回からの主要変更点

	前回(令和元年11月)	今回(令和2年3月)	
景況判断	緩やかな回復基調	足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱さがみられる	↓
鉱工業生産	持ち直しの動き	弱含んでおり、新型コロナウイルス感染症の影響もみられる	↓
個人消費	持ち直し	足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱い動きがみられる	↓

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は弱含んでおり、新型コロナウイルス感染症の影響もみられる。

10 - 12 月期には、化学は、減少した。電気・情報通信機械は、リチウムイオン蓄電池等が減少したことにより、減少した。汎用・業務用機械は、蒸気タービン部品等が減少したことにより、減少した。生産用機械は、ショベル系掘削機械等が減少したことにより、減少した。輸送機械は、航空機用発動機部品等が減少したことにより、減少した。



(備考) 1. 2015 年=100、季節調整値。近畿の最新月は速報値。

2. 全国及び近畿の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7 - 9 月期	10 - 12 月期	10月	11月	12月
化学	12.4	5.1	▲5.5	▲4.3	▲3.9	1.3
電気・情報通信機械	11.7	2.9	▲8.9	10.8	▲13.9	1.1
汎用・業務用機械	10.4	6.6	▲10.5	▲15.2	5.4	7.9
生産用機械	10.1	9.7	▲20.2	▲27.8	▲15.0	24.5
輸送機械	8.7	1.6	▲5.6	▲5.7	▲6.8	6.3
鉱工業	100.0	2.3	▲7.0	▲6.0	▲5.0	4.2

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 10 - 12 月期、12 月は速報値。

2. 個人消費の動向

個人消費は足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱い動きがみられる。

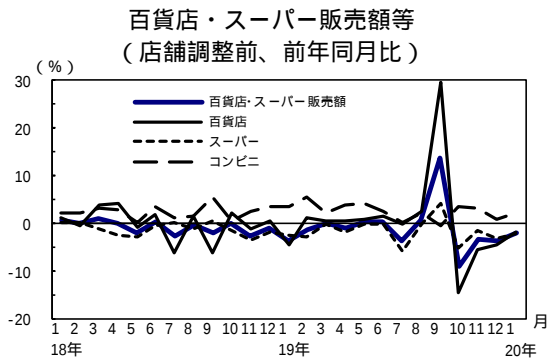
(1) 地域別消費総合指数（RDEI（消費））

10月は前月比7.4%減、11月は同1.3%増、12月は同0.7%減となった。

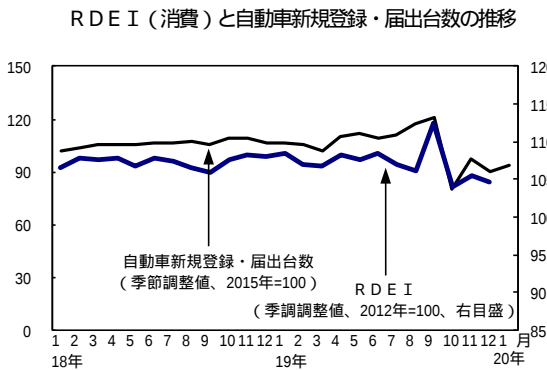
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店は、10月は、気温高により、婦人・子供服・洋品等すべての商品が、前年を下回った。11月は、気温高により、婦人・子供服・洋品等が引き続き不調だったことから、前年を下回った。12月は、気温高により、衣料品等が不調だったこと、祝日が一日少なかったことから、前年を下回った。1月は、前年を下回った。

スーパーは、10-12月期は、気温高により、飲料品等が振るわなかったことを受けて、前年を下回った。1月は、前年を下回った。



	2019年 10-12月	2019年 10月	11月	12月	2020年 1月
RDEI(消費*1)	▲3.5	▲7.4	1.3	▲0.7	—
百貨店・スーパー(*2)	▲5.1	▲9.0	▲3.2	▲3.7	▲1.9
百貨店(*3)	▲7.6	▲14.5	▲5.5	▲4.3	▲1.7
スーパー(*3)	▲3.3	▲5.1	▲1.6	▲3.2	▲2.2
コンビニ(*3)	2.6	3.6	3.3	0.9	2.1
乗用車(*4)	▲17.4	▲26.4	▲12.5	▲13.1	▲12.8
(季節調整値)(*4)	▲23.3	▲33.6	20.7	▲6.6	3.2



(備考) 1. 季節調整前(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

2020年1月は速報値。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の近畿（福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山）の値。

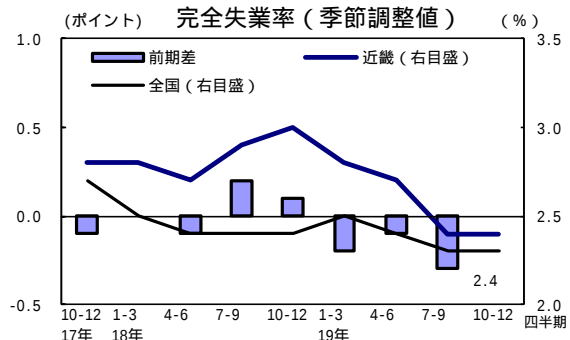
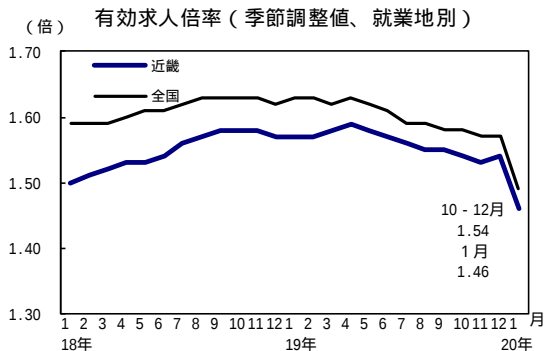
2020年1月は速報値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数 上段は前年同期(月)比(%)

3. 雇用情勢

雇用情勢は改善している。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期と同水準である。



(13) 景気ウォッチャー調査(2020年2月調査)景気判断理由の概要

8. 近畿

(良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

	分野	判断	判断の理由
現状	家計動向 関連	×	・2月の月初2週間で、インバウンド客が少ない店舗では売上が前年比で75%と落ち込み、トータルでは84%となっている(商店街)。
		▲	・インバウンド客が減少している。時期的に客は減る時期であるが、ここへきて新型コロナウイルスの問題が出てきたので、客足が更に鈍くなっている(タクシー運転手)。
		□	・足元は新型コロナウイルスによる特需で販売量が急増している。休校や外出自粛による在宅比率の高まりにより、スーパーでは一定の需要が増えている(スーパー)。
	企業動向 関連	▲	・新型コロナウイルスの影響でイベントが中止され、当日使用する予定であった印刷物の注文がキャンセルとなっている(出版・印刷・同関連産業)。
		□	・新型コロナウイルスの影響で、企業の経営が安定していない(金属製品製造業)。
		×	・前年の5月以降は全く受注が伸びていない。また、新型コロナウイルスの影響で、部品が手に入らないケースが多発している(電気機械器具製造業)。
	雇用 関連	▲	・2月初旬から、繁華街や観光地での観光客の減少が続いている。周辺店舗でのインバウンド減少の影響は相当大きい(人材派遣会社)。
		□	・新規求人数は前年の10月から減少が続いており、求職者数はここ2か月増加しているため、景気は下降気味と考えられる(職業安定所)。
	その他の特徴 コメント		▲：新型コロナウイルスの影響で人込みを避ける傾向があり、人の集まる店には来ないため、商品が売れていない(輸送業)。 ×：新型コロナウイルスの影響で、イベントが中止や延期となっている。商業施設の集客も減っている(広告代理店)。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向 関連	×	・現状は、各種メーカーが中国での部品や材料の移動のほか、輸出ができないと話している。今後、年度末に商品が不足することは間違いないようである。売上が減少し、景気も冷え込むことになる。冷え込むどころでは済まないかもしれない(一般小売店[事務用品])。
		▲	・新型コロナウイルスの感染がいつ落ち着くのか、全く不透明である。外出を控える人が今後も増えるため、来客数の減少が予想される(コンビニ)。
	企業動向 関連	▲	・地域の産業を支えている大企業が、事業の縮小を発表した。失業の増加を含め、地域経済に及ぼす影響は大きい(建設業)。
		×	・新型コロナウイルスにより、生産量を制限している(石油製品・石炭製品製造業)。
	雇用 関連	▲	・新型コロナウイルスの感染がどの程度広がるのか、読めない状況である(求人情報誌製作会社)。
	その他の特徴 コメント		▲：新型コロナウイルスの影響で、景気が後退している。消費税増税後の売行き悪化も含め、景気には悪い印象を持っている(住宅販売会社)。 ▲：新型コロナウイルス対策で活動の抑制が続くため、しばらくは消費が冷え込むと感じる(食料品製造業)。

(DI)

現状・先行き判断DIの(近畿)推移(季節調整値)

